

## 新型コロナウイルス鎮静後の上海の状況

新型コロナウイルス流行の影響をうけて、上海市は春節後の生産再開を2月9日以降に延長し、デパートやショッピングセンター、レストラン、公園、映画館なども一時休業を強いられた。学校も休校になり、学生にとっては史上最長の冬休みとなった。

上海市経済情報委員会によると、2月29日までに、上海市の指定規模以上の工業企業の生産再開率は94.5%に達し、市内の百貨店やショッピングセンター、レストランなども徐々に営業を再開し、景気も着実に回復してきた。上海市商務委員会が3月20日に公表した情報によると、3月19日までに、モニタリング対象の市内の1957カ所のスーパーマーケットの再開率は99.1%に達した。このほかの再開率を見ると、85カ所のショッピングセンター100%、5731カ所のコンビニエンスストア94.3%、飲食業界92%、農産品卸売市場と野菜市場100%などとなった。

3月3日以降、上海で新たに確認された感染事例はなかったため、上海市政府は関連法規に基づき、3月24日零時から市内の公衆衛生緊急事態の緊急対応レベルを、「一級対応」から「二級対応」に調整する（引き下げる）と発表した。その後、5月9日には、公衆衛生緊急事態の緊急対応レベルが「二級対応」から「三級対応」に引き下げられた。

緊急対応レベルを二級から三級に引き下げたことによって、1月から休校になっていた各種学校が5月18日から徐々に授業を再開し、6月2日には幼稚園と小学校1年から3年生の授業が再開された。学生が登校する際には体温測定やマスクの着用が要求されているが、校内の運動場で活動するときにはマスクをせず、また講義を受けている時にもマスクを着用しなくてもよい場合がある。

上海市地下鉄も4月30日から正常運転を開始した。6月現在では、出勤時間帯の地下鉄は、新型コロナウイルス流行前と同じく満員状態になっている。ただ、地下鉄や公共バスなどの公共交通手段を利用する場合にはマスクの着用が依然として要求されている。

新型コロナウイルスが鎮静化するなかで、上海市民の生活も徐々に正常に戻りつつある。オフィスビルなどの一部の施設に出入する際に体温測定や出入証明書がまだ必要だが、住宅団地は自由に出入りできるようになっている。百貨店やショッピングセンター、書店、スーパーマーケット等も自由に出入りすることができるようになっている。ただ、こうした施設に入る際には、依然としてマスクの着用が求められている。

生活するうえで欠かせなくなったマスクやアルコール消毒液などは 2 月ごろの不足状態が大幅に緩和され、薬局やコンビニ等で普通に購入できるようになり、市民の間では、ウイルス感染の緊張感がほぐれた。休日に出かける市民も増えつつあり、夕方に近くのグラウンドでマスクを外してジョギングなどをする市民の数も増えた。

まだ上海市民は週末や休日の市外への旅行を控えているが、市内近郊への旅行は、はっきりと増えている。統計データによると、5 月 1 日の「労働節」の 5 日間の連休時期には、上海市がオープンした 130 ヶ所の主要観光地には 285 万人の観光客が訪れた。

主要繁華街も賑わいを見せるようになっており、5 月の南京東路、西南西路、陸家嘴、徐家滙などの人出は、4 月より 62.3%、23.5%、59.9%、41.2%それぞれ増加し、売上高はそれぞれ 143.6%、43.6%、126.6%、67.7%伸びた。5 月以降、週末や休日のショッピングセンターの中にある飲食店では昼ごろのピーク時間帯には 30 分以上並ぶことがざらで、人気の高いレストランでは 2 時間以上並ぶケースさえある。

(曹 雪飛)

上海の繁華街には賑わいが戻ってきた

